ダッカ大学生物科学部

Faculty of Biological Sciences, University of Dhaka

●学部学生 33,000人　●教員 1,800人
ホームページ　http://www.univdhaka.edu/
交流協定締結年月日：1998年12月15日　　主管学部：農学部

ダッカ大学の教育・研究棟の１棟

ダッカ大学キャンパス風景

国際交流の特色

ダッカ大学はバングラデシュ独立のはるか以前、英領統治下の1921年に創立し、同国における最高学府として長い歴史をもつ総合大学である。創立以来、大学は拡張を続け、現在では13学部と、その他に10の専門教育研究機関、約40の研究センターを設置している。首都ダッカに約2.3km^{2}のメインキャンパスがある。生物科学部と本学農学部とは1980年代後期に交流が始まった。この時の共同研究が、現在脚光を浴びている希少糖研究の発展に貢献し、1990年代以降、多くの留学生が希少糖研究に携わった。協定締結後、他の分野の共同研究も行なわれ、また、多彩な分野において留学生を受入れてきた。

交流実績（令和２年度～令和４年度）

受入・派遣 ＼ 年度	R2	R3	R4
学生の受入	O	O	O
学生の派遣	O	O	O
研究者・職員の受入	O	O	O
研究者・職員の派遣	O	O	O
オンライン交流参加者（本学）	O	O	O
オンライン交流参加者（相手機関）	O	O	O

キャンパスでの学生の語らい

教員からの声

本学農学部とダッカ大学生物科学部とは、希少糖に関する共同研究のための教員の相互交流と留学生の受入れに続いて、熱帯植物の生理活性成分の共同研究のための相互の交流も行なわれました。本学部へのバングラデシュからの留学生は多く、1990年以降現在まで約70名になります。その内10名以上がダッカ大学大学院出身で、ほとんどの学生が、連合農学研究科を修了し、母国と世界各国で大学教員・研究者として活躍しています。数名は希少糖国際シンポジウム（2002, 04,06,08年）にて、招待講演を行いました。交流協定締結後は、本学部のより多くの分野で留学生を受入れるようになりました。バングラデシュからの皆さんは、学業が優秀なだけではなく、信仰心が厚く、礼儀正しく、勤勉に実験をします。

農学部教授　川村　理

学生からの声

ダッカ大学はバングラデシュで大変名高い大学です。私は同大学生物科学部で学び、修士課程修了後、2003年10月に博士の学位を得るために連合農学研究科に進学して、香川大学農学部にて樹木のリグナンの生合成に関する研究を始め、2006年9月に修了しました。その3年の間に指導教授と副指導教員の先生方の最高のご指導とご助言をうけ、充分な実験設備のもとで研究し、そして何よりも研究を共に行なう際の先生方の大変すばらしい研究姿勢を目の当たりにしてきました。これらは私を研究活動に打ち込ませる励みになっています。さらに、農学部の図書館および整った学術研究環境のおかげで、快適に研究を行なうことができました。香川の心地よい気候のために、私は当地にすぐに慣れました。私はダッカ大学生物科学部と香川大学農学部の間の学術および学生の交流が、永遠に続くと信じます。この交流が、日本とバングラデシュの間の心の底からの友好の架け橋づくりを促進させると信じます。

2006年9月連合農学研究科修了（現チッタゴン大学教授）
Dr.Md.Atiar Rahman